

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	八戸工業大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ハチノホコウギョウダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ(感性デザイン学科)
	学部・研究科等名	感性デザイン学科
	担当教職員名・役職	宮腰 直幸・准教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	19
	受入企業等数	63
	受入企業等名	十和田市現代美術館、株式会社エーアンドエムほか自治体など
	インターンシップの分類	6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ、7.中小企業でのインターンシップ、8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事、2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップは企業での就業体験を中核とする科目であり、シラバスにも明記されている。また授業の目標には、業務に従事し理解すること、および、課題発見と解決策のデザインが掲げられている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している、6.当該インターンシップは、選択科目として実施している、7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している、8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップは3年次に開講の感性デザイン応用分野に配置された選択科目で、夏期休業中に企業での実習、授業期間中に事前事後指導を行う。職場でのマナーやコミュニケーション力の向上、種々の職業の具体的な理解、職場での課題を発見しその解決策をデザインすること、学生から社会人への円滑な成長を促すことなどを目標としており、事前事後指導も含め、2単位に相当する学習時間が確保されている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている、2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている、3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている、4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている、3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	以下の内容が事前学習に含まれている。1)インターンシップの意義・目的等の理解、2)研修期間や報告などのスケジュールリング、3)職業意識、4)組織に関する基礎知識、5)企業と官庁の差異と共通点、6)職場でのマナーとコミュニケーション、6)インターンシップ先の選択とマッチング。これらについては職場での実施研修開始前に、4コマ(360分)の授業時間が充当されている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後学習としてインターンシップ報告会を実施しているほか、レポート提出、礼状作成と送付を課している。報告会では、具体的な研修内容、研修を通じて獲得した知見・スキル、反省点と今後の改善計画、全体を通じての感想などを含むプレゼンテーションを、研修参加者全員が行っている。レポートはプレゼンテーションの内容を取りまとめたもので、言語化することによる振り返りを目的としている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	研修中に3学年の正副担任、就職委員などが手分けをして、研修先を訪問し、就業状況などについて受け入れ企業と懇談している。その際、可能であれば参加学生に直接面会することもある。また、参加学生には文書での中間報告の提出を求めている。
要	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	

要素④	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	研修先選択時のアンケート、研修中の中間報告、事後指導のプレゼンテーションやレポートを総合的に比較することによって、学生の就職に対する意識の変化や社会人スキルの向上について把握している。また、社会人に必要な基礎力については学習成果の可視化を全学で進めており、自己管理能力やチームワーク力といった修得因子ごとに変動をプロット可能な状況にしている。
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。 5-2.該当する実施期間	1.はい 2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
要素⑤	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	最低5日間(うちインターンシップ実施期間3～5日)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ実施期間は3～5日だが、事前事後学習およびプレゼンテーションの準備、課題作成などで最低16時間程度を要求するため、実質最低5日間を確保している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ評価書とインターンシッププログラム報告書の提出を研修先企業に求めている。評価書では企業担当者が、研修態度、理解力・観察力、実行力、報告・相談、実習成果について5段階で評価するとともに、所見を記入する。また報告書にはプログラムの1日ごとの内容、実習生に対する感想について、同じく企業の担当者が記載する。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.hi-tech.ac.jp/syllabus/2017/
問い合わせ先	大学等名	八戸工業大学
	担当部署名	学務部 就職課
	担当者役職名	課長
	担当者氏名	栗橋 秀行
	電話番号	0178-25-8029
	メールアドレス	job@hi-tech.ac.jp